

供養とは

五泉市川内 永谷寺副住 吉原 東玄

令和元年五月三十一日「金」

供養とは「逃れない」こと。

人は、死を迎えると、その存在は消えてしまうのでしょうか？
いいえ、そうではありません。私たちは、多くの方々が亡くなつてなお、残された方々を励まし、助け、支えている場面を数多く見てきました。亡き人の思いや願いが生者と共に生き続けている事を感ずるとき、人はつながりの中で、生死を越えて生き続けることを強く感じます。供養という行いを通じて、大切な方とのつながりを保ち続けるお手伝いが出来ればと思っています。

私たちは、生死を超えた人とのつながりを、大切にしたいと考えています。

家族や友達、多くの人とのつながりの中で生きる私たち。でも、いつまでも一緒にいたいという思いとは裏腹に、死の別れは逃れることは出来ないものです。誰にでも訪れる「死」という別れの現実。でも、「いのちの終わり」が「関係の終わり」になつてしまうのでは、あまりに寂しい気がします。一緒に向き合うことは出来ないけれど、その人を心に思い、願いを共にしながら生きていく事が出来れば、それはとても心強く、しあわせなことなのではないでしょうか。

だからこそ私たちは、大切な人との生死を超えた絆を大事にしたいのです。

SOTO-ZEN.net公式サイト より

おほよそ供養に十種あり。いはゆる、一者身供養。二者支提供養。三者現前供養。四者不現前供養。五者自作供養。六者他作供養。七者財物供養。八者勝供養。九者無染供養。十者至処道供養。 正法眼蔵「供養諸仏」巻

一、仏陀の色身に対して供養すること。二、仏陀の靈廟に対して供養すること。三、まのあたり（現前）の仏身や支提を供養すること。四、まのあたり（現前）ではない、仏や支提を広く供養すること。五、自ら仏や支提を供養すること。六、自ら教えて他に、仏や支提を供養させること。七、衣服や食物、香や華など、様々な莊嚴となる財物を、仏や支提などに供養すること。八、供養する際の心持ちを説いたもの。九、供養する心に過ちがないことと、財物が非法の手段にて得られたものではないこと。十、供養することが、能く仏果に至ることを示す。